

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和元（2019）年度

| | |
|-------|---|
| 施設名 | とちぎ健康づくりセンター・とちぎ生きがいつくりセンター |
| 施設所管課 | 保健福祉部保健福祉課、高齢対策課、健康増進課 |
| 指定管理者 | 社会福祉法人とちぎ健康福祉協会（法人番号 2060005000772） |
| 指定期間 | 平成 31（2019）年 4 月 1 日～令和 6（2024）年 3 月 31 日 |

1 施設の概要

| | | | |
|-------|---|---|--|
| 施設所在地 | 宇都宮市駒生町 3337-1 | 栃木市神田町 9-40 | 矢板市矢板 54 |
| 施設の概要 | とちぎ健康づくりセンター ・とちぎ生きがいつくりセンター | とちぎ生きがいつくりセンター 県南支所 | とちぎ生きがいつくりセンター 県北支所 |
| | ① 敷地面積：196,190 m ² ② 建物面積 本館：22,976 m ² 車庫棟：1,767 m ² 陶芸教室棟：459 m ² ③ 施設 (とちぎ健康づくりセンター) 温水プール、多目的運動フロア、会議室、トレーニング室、エアロビクススタジオ、ランニングデッキ、栄養指導室 (とちぎ生きがいつくりセンター) 講堂、教室、演習室、和室、多目的ホール、テニスコート、陶芸棟 | ① 敷地面積：4,700 m ² ② 建物面積 本館：1,315 m ² 講堂兼体育館：583 m ² ③ 施設 図書・情報コーナー、講堂兼体育館、教室、演習室、和室、屋外運動場 | ① 敷地面積：5,300 m ² ② 建物面積 本館：1,552 m ² 多目的ホール：298 m ² ③ 施設 情報提供コーナー、多目的ホール、教室、演習室、和室 |
| 業務内容 | ① とちぎ健康づくりセンター ・センターの施設の維持管理に関する事 ・センターの利用に係る事務（有料施設等の許可に関するものを含む。）に関する事 ・センターの運営に関する事 ② とちぎ生きがいつくりセンター（支所を含む） ・センターの施設の維持管理に関する事 ・センターの運営に関する事 ③ とちぎ健康の森全体管理 ・とちぎ健康の森の敷地の全体管理に関する事 | | |

2 収支の状況

令和元（2019）年度

(千円)

| 収入 | | | 支出 | | |
|-------------|---------|---------|------------|---------|---------|
| 指定管理 ※2 | 指定管理料 | 485,200 | 指定管理 ※2 | 事業費 | 35,311 |
| | 利用料金収入 | 69,657 | | 管理運営費 | 312,799 |
| | その他収入※1 | 16,867 | | 人件費 | 156,839 |
| | | | | その他支出※1 | 16,481 |
| | 合計 | 571,724 | | 合計 | 521,430 |
| 指定管理業務収支差額① | | 50,294 | | | |
| 自主事業 | | 9,331 | 自主事業 | 7,958 | |

| | | |
|--|--------|---|
| 自主事業収支差額② | 1,373 | |
| 収支差額 (①+②) | 51,677 | |
| 備考 (※1 その他収入の主なものを記載) 水道光熱費等弁償金 16,867 千円 | | 備考 (※1 その他支出の主なものを記載) 租税公課支出 16,481 千円 |

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

平成 30 (2018) 年度 (前年度)

(千円)

| 収入 | | | 支出 | | |
|--|---------|---------|---|---------|---------|
| 指定管理※2 | 指定管理料 | 460,285 | 指定管理※2 | 事業費 | 45,248 |
| | 利用料金収入 | 68,871 | | 管理運営費 | 304,376 |
| | その他収入※1 | 16,859 | | 人件費 | 150,491 |
| | | | | その他支出※1 | 15,188 |
| | 合計 | 546,015 | | 合計 | 515,303 |
| 指定管理業務収支差額① | | | 30,712 | | |
| 自主事業 | | | 8,910 | | |
| 自主事業収支差額② | | | 3,516 | | |
| 収支差額 (①+②) | | | 34,228 | | |
| 備考 (※1 その他収入の主なものを記載) 水道光熱費等弁償金 16,859 千円 | | | 備考 (※1 その他支出の主なものを記載) 租税公課支出 15,188 千円 | | |

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

| 施設名 | 項目 | 平成 30 (2018) 年度 (前年度) | 令和元 (2019) 年度 |
|----------------------|------------------------|--------------------------|---------------|
| とちぎ健康づくりセンター | 施設利用講習 | 2,218 人 | 1,824 人 |
| | 体力測定 | 331 人 | 281 人 |
| | 講座 | 810 人 | 703 人 |
| | 健康相談 | 2,910 人 | 3,001 人 |
| | プール・トレーニングルーム・ランニングデッキ | 82,253 人 | 73,484 人 |
| | 運動フロア | 1,879 時間 | 1,836 時間 |
| | エアロビクススタジオ | 1,388 時間 | 1,622 時間 |
| | 大会議室 | 1,301 時間 | 1,291 時間 |
| | 小会議室 | 1,210 時間 | 1,322 時間 |
| | 多目的フロア | 2,885 時間 | 3,017 時間 |
| とちぎ生きがいがづくりセンター | テニスコート | 3,455 時間 | 3,269 時間 |
| | 講堂 | 660 時間 | 739 時間 |
| | 教室 | 1,723 時間 | 2,292 時間 |
| | 演習室 | 1,157 時間 | 1,340 時間 |
| | 和室 | 171 時間 | 177 時間 |
| | 多目的ホール | 324 時間 | 412 時間 |
| とちぎ生きがいがづくりセンター 県南支所 | 講堂兼体育館 | 3 時間 | 10 時間 |
| | 教室 | 567 時間 | 672 時間 |
| | 演習室 | 0 時間 | 2 時間 |
| | 和室 | 227 時間 | 280 時間 |
| | 屋外運動場 | 0 時間 | 0 時間 |

| | | | |
|-----------------------|--------|----------|----------|
| とちぎ生きがづくりセンター 県北支所 | 多目的ホール | 153 時間 | 143 時間 |
| | 教室 | 1,117 時間 | 1,133 時間 |
| | 演習室 | 113 時間 | 103 時間 |
| | 和室 | 0 時間 | 0 時間 |

4 サービス向上に向けた取組

| |
|--|
| <p>(とちぎ健康づくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用環境の整備 施設物品、貸出物品の充実 情報提供及び広報活動の推進 魅力ある集団指導、講座の開催 施設利用カードの更新対応日時の拡大 プリペイドカード特典の充実 <p>(とちぎ生きがづくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動団体とのマッチング授業の実施 同窓会活動に関するカリキュラムの充実 授業料等のコンビニ収納サービスの導入 |
|--|

5 利用者意見への対応

| |
|--|
| <p>利用者意見の把握方法</p> <p>(とちぎ健康づくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> とちぎ健康づくりセンター利用者を対象としたアンケートの実施による把握 <ul style="list-style-type: none"> ① 調査年月 令和元(2019)年9月1日～9月30日 令和2(2020)年2月1日～2月29日 ② 調査対象者 会議室利用責任者とプール等の運動施設利用者ごとに、設問の内容を一部変えて実施した。 ③ 調査方法 アンケート用紙配布による調査(回答者数522名 回収率100%) ④ 調査結果 施設の貸出及び利用サービスについて、「とても満足」及び「満足」と答えた人は、全体の79%を占めている。プール・トレーニング室等運動施設では83.9%と、昨年度同様、満足度は高水準を維持している。 当施設を選んだ理由としては、貸出施設では「料金」、「交通の便」、「利用環境」及び「設備・備品」、運動施設では「料金」に関心が持たれている。 利用者意見箱「お客様の声」の設置(結果については「主な利用者意見」を参照。) 電話、口頭、メール等による意見等の受付 <p>(とちぎ生きがづくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> シルバー大生を対象としたアンケートによる把握 <ul style="list-style-type: none"> ① 調査年月 平成31(2019)年4月～令和元(2019)年9月 ※10月～翌年3月分アンケートについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う休校のため未実施。 ② 調査対象者 第40期生(1年次) 450名 第39期生(2年次) 439名 計 889名 ③ 調査方法 アンケート用紙配布による調査(回答者数799名 回収率89.9%) ④ 調査結果 カリキュラムについて、「良い」「普通」と答えた人は、全体の93%を占めており、カリキュラムにおおむね満足していることがうかがえる。 |
|--|

| 主な利用者意見（苦情・要望） | 対 応 |
|---|--|
| <p>(全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸館について、ホームページから予約をできるようにしてほしい。 ・館内に持参した弁当が食べられる場所がほしい。 <p>(プール、トレーニング室等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング器具を増設してほしい。 ・スポーツ用品の物販をしてほしい。 ・エアロビクススタジオを利用すると息苦しく感じることもあるため、換気をしてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年6月からWEB予約システムを導入した。 ・館内の飲食可能スペースの設置について検討。 ・必要な機器の配置に努める。 ・令和2年1月より、水泳キャップ・ゴーグル、スポーツタオル等の有償配布を開始した。 ・サーキュレーターを2台設置し、空気が循環するようにした。 |
| <p>主な利用者意見（積極的評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の方がとても親切で、感謝しています。 ・月額制でなく、都度払いの料金システムが、分かりやすく利用しやすいです。 ・施設がいつもきれいで、よく整備されています。 | |

6 指定管理者による自己評価

| 成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組 |
|---|
| <p>(とちぎ健康づくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用開始時間の30分繰上げや、施設利用カード更新対応日時の拡大、プリペイドカードの特典の充実、貸出施設利用料のコンビニ収納サービスの導入など、施設利用の利便性向上を図った。 ・とちぎ健康の森フェス2019の開催や、ホームページによる情報発信を行うほか、冬季イベントの実施により、施設の利用促進に取り組んだ。 ・健康の森パンフレット及びホームページのリニューアル、館内掲示の工夫により分かりやすい掲示とタイムリーな情報提供に努めた。 ・2月27日以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館となり、年間を通した利用人数は前年度を下回ったが、貸出し施設は前年度を上回った。 ・収入においては、消費税改定等に伴う利用料金の改定及びプリペイドカード特典の充実により、前年度と比較して微減にとどまった。 ・利用者アンケートからおおむね満足との結果が得られたことから、県民一人ひとりが生涯にわたり健康でいきいきと暮らせる、豊かで活力ある“健康長寿とちぎ”の創造に寄与するために、県民の自主的な健康づくりを総合支援することができたと考える。 <p>(生きがいつくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生からのアンケートを反映させた学習カリキュラムの編成を行った。 ・新たな取組として、授業料等のコンビニ収納サービスを導入したほか、シルバー大学校への入学が高齢者の健康状態及び社会参加意欲等に与える影響を検証する調査を開始した。 ・収入においては、学生数の増加及び消費税改定に伴う授業料等の改定により、前年度を上回った。 ・2月26日以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校となったが、学生連絡網、ホームページ及び一斉メール配信により迅速な情報提供に努めた。 ・卒業生の活動については、地域活動支援センターや他団体からの活動依頼が増加し、活躍の場が拡大している。 ・施設の貸出しでは、一般利用に加え、シルバー大学校卒業生の活動拠点として利用され、シルバー大学校を中心に高齢者の多様な生きがいつくりを支援することができた。 |

| 指定管理者の提案事項に対する自己評価 ※指定管理者が独自に設定 | |
|--|---|
| 項目 | 実績・評価 |
| <p>目標 1 利用者の安全・安心を確保</p> <p>①施設・設備等の適切な維持管理</p> <p>②省資源・省エネルギーの取組強化</p> <p>③災害・事故等の危機管理対策の徹底</p> <p>④利用者の個人情報保護の適正管理</p> | <p>①各業務委託業者により定期設備点検を実施し、適時、修繕等を行った。警備員による巡回や、職員による定時巡回の実施により、安全の確保と環境の保全を図った。</p> <p>②入居団体と連携を図り、使用していない部屋の空調を切る等、エネルギー使用量の削減を図った。</p> <p>③防災訓練の実施により、防災意識の向上を図るとともに、消防用設備等の定期的な点検を実施した。</p> <p>④関係法令等を遵守するほか、指定管理者で定める「個人情報保護に関する要綱」及び「特定個人情報の取扱いに関する要綱」等に基づき、管理体制を整え適正に取り扱った。</p> |
| <p>目標 2 利用者ニーズや利便性を考慮した施設運営</p> <p>①施設利用開始時間の繰上や新たな使用料等の納入方法の検討等</p> <p>②利用者の状況に応じた指導や配慮</p> | <p>①貸館及びプール等においては、施設利用開始時間を条例規定の時間より 30 分繰り上げた。施設利用料及びシルバー大学校授業料等について、コンビニ収納サービスを導入した。スポーツ用品について、有償配布を開始した。</p> <p>②ハイリスク者に対して、保健師面談を実施し、安心安全な利用に繋げた。施設利用カード更新対応可能日・時間を拡大した。</p> |
| <p>目標 3 新たな利用者の掘り起こし</p> <p>①効果的な広報活動やイベント等の実施</p> <p>②とちぎ健康づくりセンターの利用者の増加対策</p> <p>③とちぎ生きがいがづくりセンターの利用者の増加対策</p> | <p>①とちぎ健康づくりセンターのホームページをリニューアルし、タイムリーな情報の発信を行った。毎月第3日曜日の「家庭の日」イベントとして運動フロアの無料開放を実施するほか、「とちぎ健康の森フェス 2019」を開催し、県民への周知及び情報提供に努めた。シルバー大学校学校祭や地域活動実習を通して、地域でのシルバー大学校の活動の理解と周知に努めた。</p> <p>②働く世代への健康づくりを支援するため、企業・団体向け利用チケット制度を導入した。とちぎ子育て家族応援事業に協賛し、運動フロアを親子で利用する際の運動物品の無料貸し出しサービスを開始した。</p> <p>③各種広報媒体、公開授業の実施等により、周知に努めた。学生募集期間を延長し、追加募集を行った。使用していない教室は、シルバー大学校卒業生の活動や一般貸出等の目的外使用許可を行い、適正運用を図った。</p> |
| <p>目標 4 健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けた取組</p> <p>①集団指導及び運動指導の実践</p> <p>②健康づくり講座の実施</p> <p>③利用者ニーズに応じた体力測定、運動実践メニューの作成</p> | <p>①集団指導については、日時や運動強度別の開催を設定し、利用者が選択・参加しやすいよう配慮した。ストレッチやロコモ予防トレーニングを中心としたミニレッスンを開催した。</p> <p>②保健師・管理栄養士・健康運動指導士の専門職員の連携により効果的な健康づくりに繋げることができた。</p> <p>③体力測定の結果をもとに運動メニューの作成及び定期的な見直しを行い、継続的に健康づくりの支援を行った。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>④健康づくりに関する相談の実施や情報発信、普及啓発</p> | <p>④県民及び施設利用者に対して、医師相談を含めた健康相談を実施した。 新型コロナウイルス感染症による施設休館期間においては、トレーニング動画や栄養メニューレシピなど「自宅でできる健康づくり」の情報をホームページで発信した。</p> |
| <p>目標 5 地域や団体等に出向いた講座や研修会等の実施</p> <p>①企業・団体等と連携した出張講座等の開催</p> <p>②市町職員等の健康づくり活動を支援する研修会の開催</p> <p>③県南・県北支所を活用した講座等の実施</p> | <p>①地方職員共済組合栃木県支部において、受講職員の減量を目的とした長期講座を開催するなど、各団体等で講座を実施した。</p> <p>②健康保険組合職員健康増進研修会を開催した。</p> <p>③（公財）栃木県シルバー人材センターの会員向けに、県南支所・県北支所を利用した健康講座を実施した。</p> |
| <p>目標 6 ノウハウを活かした新たな独自講座等の実施</p> <p>①各種データの分析結果の公表及び市町・関係機関への情報提供</p> <p>②調査研究の成果を活かした独自講座の実施</p> | <p>①運動実践メニューを作成することで健康づくりの支援を行った利用者を対象に評価・分析・検証を行い、結果を事業報告書として取りまとめ、市町・関係機関へ送付した。</p> <p>②メタボリックシンドローム解消等を目的とした「3・3講座」などの長期講座において、毎年データの分析を行い、その成果を活かした講座等の企画を行った。</p> |
| <p>目標 7 地域課題等を反映した学習カリキュラム</p> <p>①地域課題等と向き合い、実体験できる学習内容の提供</p> <p>②学生ニーズを反映した学習カリキュラムの見直し</p> <p>③県及び市町・関係団体等との情報交換や意見聴取</p> | <p>①シルバー大学校卒業生による観光案内、子ども食堂の運営状況や災害福祉マップ作りなど地域課題や社会状況に応じた学習内容や実体験を新たに授業に組み入れた。</p> <p>②学生の満足度や意見等を把握し、シルバー大学校教務部長等会議で議論を行い、カリキュラムの見直しを行った。また、授業内容については、講師と調整し、適宜見直しを行った。</p> <p>③栃木県シルバー大学校運営委員会等において、新規事業内容や学習内容、創立 40 周年記念事業の実施について幅広く多様な意見を聴取した。</p> |
| <p>目標 8 卒業後の地域活動に繋がる効果的な仕組み</p> <p>①在校生に対する地域活動に向けた支援</p> <p>②卒業生に対する地域活動の支援</p> <p>③シルバー大学校の認知度向上に向けた広報活動</p> | <p>①在校生を対象に、地域団体との情報交換を行うマッチングの授業を設け、卒業後にスムーズに地域活動に参加できるよう努めた。 講師や関係団体からのボランティア募集情報や同窓会活動の現況報告書等を掲示し、学生への情報提供を行った。</p> <p>②卒業後の活動発表や活動の場を広げるため、卒業生を授業の講師として活用した。 全国明るい長寿社会づくり推進機構推薦の地域活動の一例である「ふまねっと運動」については、県内サポーターが卒業生等を中心に 80 名以上となり、組織化に向け継続的な活動を支援した。</p> <p>③学生の活動情報をホームページや情報誌に掲載し、活動を県民に広くアピールした。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>目標9 当協会の福祉施設や他の事業等と連携した取組</p> <p>①在校生や卒業生による健康づくり事業との連携・協力</p> <p>②生きがい推進員の活動支援やねりんピック事業への参加促進</p> <p>③とちぎ健康福祉協会の福祉施設や関係団体等との連携</p> | <p>①JA 共済・FM 栃木主催「健康づくりフェスタ 2020」へ「ふまねっと運動体験ブース出展」の依頼を受け、サポーター資格のある卒業生と連携し、ブース運営・広報を行った。</p> <p>②生きがい推進員の活動支援として、長年活動している団体等を知事表彰に推薦したほか、シルバー大学校の講師として活用し活動の意欲を高めた。</p> <p>③協会が運営する福祉施設へ、クラブ活動の発表や読み聞かせボランティアなどの派遣調整を行った。</p> |
| <p>今後改善・工夫したい事項</p> <p>(とちぎ健康づくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全域への健康づくり事業の展開 ・ 施設・設備の経年劣化による修繕への対応 <p>(とちぎ生きがいづくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者の確保 ・ 魅力あるカリキュラムの編成 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での学校運営 | |

7 所管課による評価

| 項目 | 評価の内容 | 確認内容・所見等 | 評価 |
|----------------|------------------------|---|----|
| 1. 住民の平等利用の確保 | ①住民の平等利用が確保されたか | 健康づくりセンターの利用許可は原則として先着順、また、生きがいづくりセンターのシルバー大学校の入学希望者が定員を超過した場合には抽選によるなど、公正・公平な方法で利用者を決定しており、平等利用は確保されている。 | C |
| | ②使用許可に関する権限が適正に行使されたか | 条例・規則等に基づき手続が実施されており、適正な管理が行われている。 | C |
| | ③高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか | (健康づくりセンター) 高齢者や障害者の利用に際しては、スタッフによる見守りを強化するなど適切な配慮がなされている。 (生きがいづくりセンター) 障害者用トイレ、スロープ、エレベーターを設置しており、高齢者、障害者等に配慮した環境が整っている。また、身障者の受入実績があり、平等利用は確保されている。 | C |
| 2. 施設の効用の最大限発揮 | ①施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか | 利用実績やアンケート結果等から、施設の設置目的に沿って業務が適正に実施された。 | C |

| | | | |
|--------------------|------------------------------|---|---|
| | ②施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか | 利用者の意見に速やかに対応するなど、県民サービスの向上が図られた。新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用者講習の受講者等は減少したものの、貸館は前年を上回るなど施設の利用促進が図られた。 | C |
| | ③利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか | 利用者アンケートを実施し、利用者の満足度を把握しており、また、その結果から利用者の満足度は高い水準を維持している。 | C |
| | ④利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか | 利用者アンケートや意見箱等に寄せられた意見・苦情に対して、指定管理者が対応できる事項については速やかに対策を講じており、適切な対応がされている。 | B |
| | ⑤施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか | 施設、設備、備品の定期点検を行い、不備があった際は指定管理者が対応できる範囲で速やかに対応しており、適切な対応がされている。 | B |
| | ⑥指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか | 貸出施設やシルバー大学校授業料等のコンビニ収納サービスを導入し、利用者の利便性が向上した。 (健康づくりセンター) 利用者の利便性向上を図るため、自主事業として、スポーツ物品や会議室物品の貸出等を実施しており、業務改善が認められる。 (生きがいづくりセンター) 授業アンケートを実施し、学生の評価及び意見を反映させたカリキュラム編成に向けた取組が進められた。 | B |
| 3. 管理を安定的に行う物的人的基礎 | ①組織体制は適正か | 管理執行体制等により確認したところ、組織体制は適正であった。 | C |
| | ②収支は適正でバランスがとれたものか | 事業計画書、事業報告書等により確認したところ、収支のバランスは適正であった。 | C |
| | ③経費の縮減に取り組んできているか | 事業計画書、事業報告書等により確認したところ、事業費・管理運営費の縮減に取り組んでいる。 | C |
| | ④人材育成は適切に実施されているか | (健康づくりセンター) 職員の業務内容に応じた研修が計画的に実施されており、人材育成は適切に実施されている。 (生きがいづくりセンター) 明るい長寿社会づくり推進機構開催研修に参加し、資質の向上に努めている。また、新任者向けに勉強会を開催し、運営等の円滑化を図っている。 | C |

| | | | |
|---|---------------------------------|--|---|
| | ⑤危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか | 入居団体との連絡調整や併施設との緊密な連携のもと、防火・防災・防犯対策等を講じており、危機管理体制は確保されている。 | C |
| | ⑥県や関係機関との連携ができていますか | 県、関係機関を含めた緊急時の連絡体制一覧を作成・共有しており、連絡体制は確保されている。 | C |
| 4. 個人情報保護 | ①個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか | 「個人情報の保護に関する要綱」を定め、取扱いに十分に配慮し、適正な維持管理に努めている。 | C |
| | ②情報公開は適切になされているか | 「情報公開に関する要綱」を定めており、当該年度における2件の開示請求について適切に対応を行った。 | C |
| 5. その他 | ①施設の特徴にふさわしい自己評価がなされているか | 利用者アンケート等の結果に基づき、指定管理者が対応できる事項については速やかに措置を講じるなど、適正な自己評価がされている。 | C |
| | ②自主事業が計画どおりに実施されているか | 運動用具や会議用物品の貸出し、コピー・FAXサービス、自動販売機の設置等おおむね計画どおりに実施されている。 | C |
| | ③イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか | 「とちぎ健康の森フェス2019」の開催や「家庭の日」の運動フロア無料貸出しの実施により、多くの地域住民が訪れた。 | C |
| | ④環境への配慮（騒音・公害対策、ごみ削減等）がなされているか | 照明の間引き点灯や入居団体と連携した空調の使用減により、省エネルギーに取り組んでおり、環境への配慮がなされている。 | C |
| | ⑤その他管理運営上の特記事項（コロナ対策がなされているか等） | 「新型コロナ感染防止対策取組宣言」運動に参加し、利用者が安心して施設を利用出来るよう、感染防止対策の見える化を行った。 | C |
| 総合的な評価 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管理運営全般に関して、適正に執行されていると認められる。特に、施設の老朽化に伴う必要な修繕等を適切に行うなど、施設の安定的な運用に努めている。 ・健康づくり・生きがいづくりの効果が県全域に波及するよう、積極的な事業展開を期待する。 | | | |

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して極めて優れた取組となっている。
- B：事業計画に対して優れた取組となっている。
- C：事業計画どおりの取組となっている。
- D：事業計画に対して劣る取組となっている。
- E：事業計画に対して極めて劣る取組となっている。